

2018/07

平成30年7月豪雨災害 災害ボランティアセンター 活動報告書

倉敷市災害ボランティアセンター
まび復興支援ボランティアセンター





目次

はじめに	…	1
第1章 復旧・復興支援活動		
1 対応経過	…	2
2 ボランティア活動	…	13
3 運営支援・協力団体	…	16
第2章 ご支援いただいた皆様（なかま）からの声		
1 運営支援・協力団体	…	19
2 地元（被災地）住民組織	…	30
第3章 資料		
1 平成30年7月豪雨災害について	…	32
2 協定書	…	35
3 技術を伴う災害ボランティア活動の基準（技術ボランティア目録あわせシート）	…	37
4 倉敷市災害ボランティアセンター救護班活動報告（抜粋）	…	44
あとがき	…	47

はじめに

西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水のほか、土砂崩れ等が発生し、甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨。倉敷市では、とりわけ真備地区において堤防の決壊や河川の氾濫等により多くの尊い命が奪われました。ここに改めて、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

発災後、倉敷市社会福祉協議会は、倉敷市や関係機関・団体等と連携を図り、被災状況等を把握しつつ、支援活動のための体制を整え、市の要請により平成30年7月11日に倉敷市災害ボランティアセンター（本部）を玉島地区の中国職業能力開発大学校に設置しました。その後、10月25日からは、真備地区のまびいきいきプラザ多目的広場に本部を移転し、『より近くで、より丁寧に、寄り添う』活動を行いました。さらに、平成31年4月1日からは、名称をまび復興支援ボランティアセンターに変更、拠点を倉敷市真備保健福祉会館に移転し、ボランティア活動を継続しています。

この間、災害ボランティアセンターには、全国各地から多くのボランティアが駆けつけ、様々な支援活動を行っていただきました。また、センターの運営においても多くの団体・個人のご支援をいただいたことで、延べ約77,000人のボランティアの皆様に参加していただくことができました。本会は、復興に向けて災害ボランティアセンターによる家屋等の復旧支援、生活支援コーディネーターによる集いの場の開催や炊き出し等の支援、真備支え合いセンターによる被災者の見守り活動や相談支援などの活動に取り組んでいます。

災害から1年8か月を経過し、被災者支援の状況が変化していることから、あらためて本会が運営した災害ボランティアセンター（まび復興支援ボランティアセンター）の取り組みを振り返り、整理してこれからの活動に資するため、本報告書を作成いたしました。

今後も、被災された方が一日も早く日常の生活に戻るための支援や、コミュニティ再建の支援が必要です。本会は引き続き住民の皆様へ寄り添い、地域福祉の推進に努めてまいりますので、皆様の一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

最後に、今回の災害でご支援ご協力をいただきました皆様、また、本報告書作成にご協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。



社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会

会長 中 桐 泰

第1章 復旧・復興支援活動

1 対応経過

(1) 時系列

7月7日(土)	初動 民生委員を通じて各地区の被害状況を確認。また、倉敷市から「災害時におけるボランティア活動等に関する協定書」に基づく災害ボランティアセンターの設置要請を受け、設置場所確保のため市役所各部署に協力依頼。
7月8日(日)	災害ボランティアセンター設置準備・協議 電話対応を行うとともに、災害ボランティアセンター設置と今後の通常業務の継続について協議。災害ボランティアセンター本部設置場所を検討。
7月9日(月)	災害支援ネットワーク岡山へ参加 支援団体等全国から関係者が集合。県内被災状況確認と今後の支援活動の情報共有。本会職員3名参加。災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)、岡山NPOセンター、ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)、災害NGO結、風組関東等の団体と意見交換。
7月10日(火)	本部を中国職業能力開発大学校(ポリテクカレッジ)に決定 中国職業能力開発大学校の学長と面会し、即日、体育館及び運動場の借用を決定。また、倉敷市より災害ボランティアセンターを11日に開設するよう依頼あり。 開設準備スタート 午後から準備を開始。岡山県社協、岡山NPOセンター、倉敷青年会議所、支援P、PBVなどの団体が設置準備に協力。
7月11日(水)	倉敷市災害ボランティアセンター開設 7月11日(水)から倉敷市災害ボランティアセンターを開設。7月11日(水)～13日(金)までは、倉敷市内在住・在勤の方を条件にボランティア募集。また、真備地区内の渋滞緩和のためシャトルバスを運行し、本部から真備地区に設置した現地拠点(真備支所、ニシナ真備店職員駐車場【まび記念病院東】の2カ所)へ送迎。
7月14日(土)	全国からのボランティアの受付を開始 この日より全国各地から来られたボランティアの受入れを開始。多くのボランティアの参加を予想し、土・日曜日及び祝日はポリテクカレッジの他、沿岸部の玉島ハーバーアイランドを臨時駐車場としシャトルバスを運行。活動終了後には、毎日、スタッフミーティングを行い、倉敷市社協と運営に関わっていた関係機関職員・NPO・ボランティアと協議を重ね、共通認識を図るとともに、改善を繰り返した。 また、効率よくボランティアが活動できるように現地拠点(サテライト)を徐々に増加させ、最大12カ所(新田、良御崎神社、岡田、その・かわべ、下右井、下二万、旭町、やた、富田橋、呉妹、服部、広江【水島地区】)となった。※P.4『サテライト位置図』参照
7月20日(金)	ボランティアビレッジ(宿泊所)の受付開始 ボランティアの宿泊所として、真備美しい森を借用しボランティアビレッジとして開放。NPO法人MAKE HAPPY 災害復興支援プロジェクト め組 JAPAN が運営を担当。
7月27日(金)	Peatix(ピーティクス)の導入 岡山NPOセンターICT導入支援チームにより、ボランティア受付の簡素化や効率化を目的にボランティアのWEB受付を導入(PeatixというWEBチケット販売サービスを利用)。この導入により、受付時の待ち時間の短縮のみでなく、当日のボランティア参加数の予測が可能になった。

(2) 運営体制図・組織図

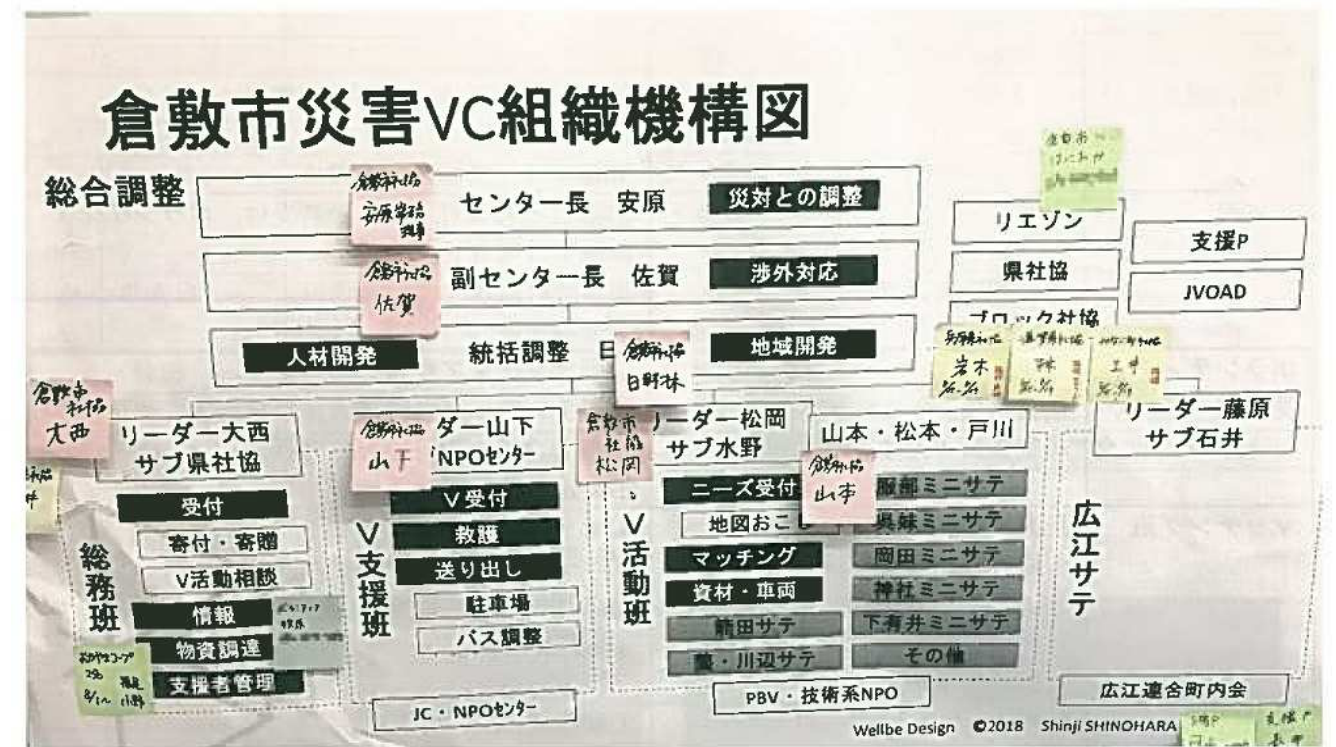
【災害ボランティアセンター本部の変遷】



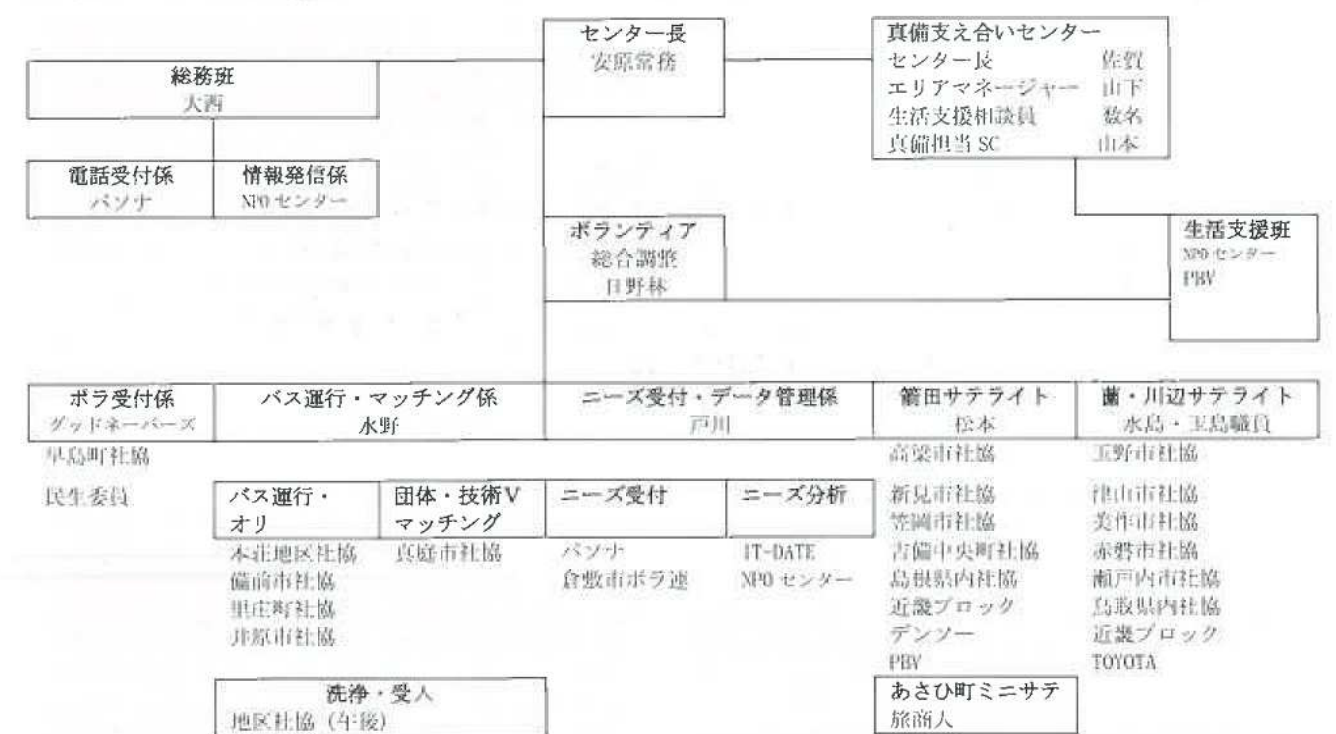
運営体制図・組織図①【開設から8月中旬頃まで】



運営体制図・組織図②【8月中旬から9月末まで】



運営体制図・組織図③【9月末から10月24日まで】



運営体制図・組織図④【10月25日から3月末まで】

役割	担当	内容
センター長 (総合調整)	日野林	①各班の調整 ②他機関、団体との連携調整 ③プレス対応 ④義援金、支援金の受付
総務班	大西 パソナ 岡山 NPO センター	①電話・来所対応 (ニーズ受付、ボランティアに関する問合せ) ②資機材調達 ③情報発信
ボランティア 受付班	漆原 社協職員 民生委員・児童委員	①ボランティア受付 ②ボランティア保険加入、事故報告 ③ボランティア証明書の発行 ④高速道路無料化手続き
マッチング班	長次・津郷 市総合福祉事業団 ピースポート 日赤ボランティア 社協職員 (ブロック派遣含む)	①オリエンテーション ②ニーズとのマッチング (団体、技術系含む) ③ボランティア活動報告 ④現地確認 ⑤救護
資機材・車両班	災害 VC 連絡会 デンソー	①資機材の貸し出し ②資機材、車両の管理

運営体制図・組織図⑤【まび復興支援ボランティアセンター 4月1日から7月31日まで】

役割	担当	内容	
所長 (総合調整)	小野	ボランティア活動に必要な事項の調整	
ボランティア受付 誘導	漆原 民生委員	①ボランティアの駐車場への誘導と受付への案内 ②ボランティアの受付、ボランティア活動保険の加入 ③受付終了者の誘導 ④長靴等の洗浄補助 (14:30頃から) ⑤必要な書類等の発行 (14:30頃から)	
マ ッ チ ン グ	マッチング	日野林 社協職員 災害 VC 連絡会 日赤ボラ	①オリエンテーション (日赤ボランティア) ②マッチング (社協職員、災害 VC 連絡会等) ③資機材の確認 ④電話対応 ⑤活動報告 ⑥連絡調整 (アポどり等)
	車両班	田淵	①車両マッチング ②廃棄物等の搬出マッチング
救護	看護ボラ	①けが人等の応急処置等	
現地調査	日野林 ピースポート	①依頼があったお宅を事前に訪問し、作業内容を確認	
ニーズ受付	パソナ	①電話・来所対応 (ニーズ受付、ボランティアに関する問合せ)	

運営体制図・組織図⑥【まび復興支援ボランティアセンター 8月1日から閉鎖まで】

役割	担当	内容	
所長 (総合調整)	小野	ボランティア活動に必要な事項の調整	
受付	漆原	①登録者へ連絡 (電話、メール)、ボランティア受付 ②ボランティア活動証明の発行	
マ ッ チ ン グ	マッチング	日野林 漆原	①マッチング (事前に調整) ②資機材の確認 ③活動報告
	車両班	田淵	①車両マッチング ②廃棄物等の搬出マッチング
救護	看護ボラ	①けが人等の応急処置等	
現地調査	日野林・漆原	①依頼があったお宅を事前に訪問し、作業内容を確認	
ニーズ受付	パソナ	①電話・来所対応 (ニーズ受付、ボランティアに関する問合せ)	

(3) 活動の様子【写真集】

①発災から7月10日まで



開設前日ミーティング



開設準備



開所前



ポリテックグラウンド草刈り

②災害ボランティアセンター開設から
(倉敷市災害ボランティアセンター本部：中国職業能力開発大学校)



開所式会長あいさつ



スタッフ朝礼 (本部)



ボランティア受付



ボランティア受付 (Peatix)



やたサテライト



現場活動



オリエンテーション (日赤)



オリエンテーション (社協)



その・かわべサテライト



サテライトから徒歩移動



ボランティア送り出し



ボランティア送迎バス (本部)



広江サテライト【水島地区】



広江サテライトに集まったボランティア



玉島ハーバーアイランド待機場所



ボランティア送迎バス (玉島ハーバーアイランド)



資機材・長靴等の洗浄



手洗い・うがい



活動報告



けがの応急処置(救護班)



運営スタッフによる竹灯籠づくり



完成した竹灯籠



各種手続き



活動終了後のミーティング

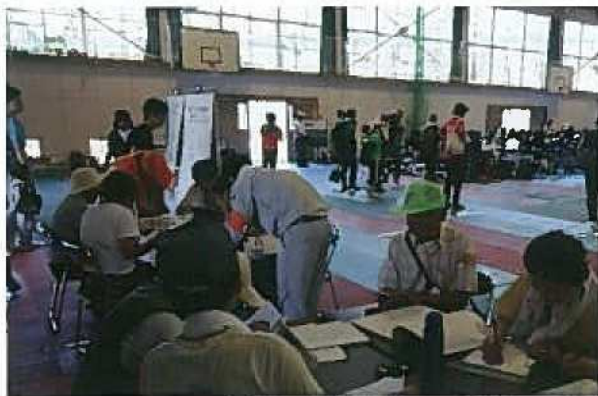


ボランティア向け情報掲示板



倉敷商業高校書道部の作品

(倉敷市災害ボランティアセンター本部：まびいきプラザ)



ニーズ受付(電話対応)



マッピング作業



会長あいさつ



ボランティア受付



災害支援ネットワークおかやま@くらしき第1回会議
(8月21日)



写真洗浄ワークショップ



マッチングの準備(事前電話)



ボランティアの送迎(活動現場まで)



ニーズ受付班

(まび復興支援ボランティアセンター)



黄色いハンカチ (メッセージ)



ボランティア受付



オリエンテーション



マッチングの打ち合わせ



依頼内容をボランティアさんに説明 (マッチング)

2 ボランティア活動

(1) 活動実績

(令和2年1月31日現在)

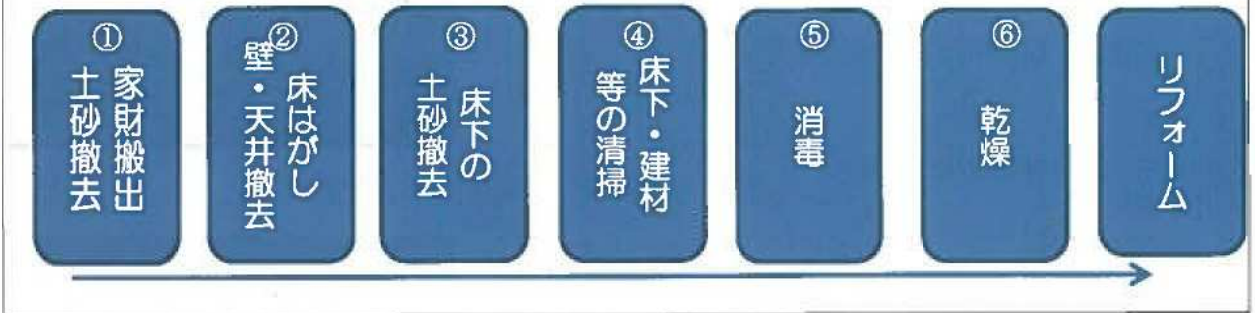
期 間	運営形態	活動日数 (日)	ボランティア人数 (人)
7/11~12/4	毎日実施	119	63,829
12/5~2/11	水曜日定休	52	6,208
2/12~3/31	火・水曜日定休	30	3,028
4/1~7/31	土・日曜日実施	28	2,596
8/1~1/31	随時実施 (登録制)	48	775
合 計		277	76,436

ボランティア依頼件数: 延べ6,264件 (令和2年1月31日現在)

(2) ボランティアによる支援活動内容

災害ボランティアセンター及びまび復興支援ボランティアセンターでは、主に家屋の復旧支援や解体に伴う家財等の搬出・廃棄支援を行った。

家屋の復旧作業 (水害時)



① 家財搬出・土砂撤去 (災害ゴミの撤去含む)

【作業内容】

家屋内に入った泥や土砂、浸水により使えなくなった家財 (災害ゴミ) を撤去する。また、使用可能な家財等は、保管できる場所へ移動する。

なお、家屋の解体等で不要になった家財の搬出および廃棄のお手伝いも行った。

【注意事項】

- ・瓦礫や廃棄物を捨てる際には、外観や損傷具合などのみで独断で行わず、必ず依頼主に確認する。また、分別もしっかり行う。
- ・大きな家財搬出の際には、家屋内で傷をつけてはいけない箇所 (敷居やサッシ等) に注意する。できれば、雑巾や段ボール、養生カバー等を用いて養生をする。さらに、作業中踏むことで、敷居や玄関框などは破損してしまうので注意する。
- ・床下の泥出しも忘れず行う。残っていると、後にカビ等の原因になる可能性があるため注意する。



② 床はがし、壁・天井はがし (内装撤去) ※8月中旬以降実施

【作業内容】

浸水によって家屋内部に菌や臭いの元が入り込んでしまうため、天井、壁、床及び内側の水が染み込んだ部分の撤去を行う。構造上、浸水によって強度が落ちてしまった部分の木材、建材の撤去も行う。無垢材については、再利用できることもある。

【注意事項】

- ・安全第一で活動する。また、作業内容に関して、安全面や技術面で不安がある場合は、無理に行わない。
- ・傷つけてはいけない箇所の確認や養生等を必ず行う。
- ・後のことを考えながら作業を行う。特に、剥がす順番 (高い位置から) を間違えると作業効率が悪くなるとともに、危険性も高くなるので注意する。



③床下の土砂撤去

【作業内容】

床下に流れ込んだ土砂等を撤去する。また、土壁や残材など、はがし作業で落ちたゴミ等も撤去する。

【注意事項】

・この作業を行わずリフォームすると、後に悪臭やカビの原因となるので、丁寧に作業する。



④床下・建材等の清掃（洗浄）

【作業内容】

内装撤去後、細かな残材や泥汚れ等を落としたり拭き取る作業。方法はブラッシングや水拭き等を行う『拭き上げ作業』と高圧洗浄機を用いて洗い落とす『高圧洗浄』とがあるが、メリット、デメリットを確認のうえ作業を選択する必要がある。

【注意事項】

・洗浄前に残材、釘、ビス等の残りが無いかを確認する。
・作業を行う場所の確認と、リフォーム着工時期を確認してから、どの方法が適切か検討する。



⑤消毒

【作業内容】

清掃（洗浄）終了後、しっかりと乾燥させてから消毒を行う。倉敷市災害ボランティアセンター及びまび復興支援ボランティアセンターではオスバン噴霧（希釈100～200倍）を行った。

ただし、NICCO（公益社団法人日本国際民間協力会）及び一般社団法人岡山県ペストコントロール協会など専門知識・経験がある団体が作業を実施。

【注意事項】

・薬品を扱う作業なので、使用上の注意等を必ず守ること。
・消石灰の使用については、建物内では原則使用不可とする。



⑥乾燥

【作業内容】

洗浄や消毒によって、水分を含んだ家屋の木材等を十分に乾燥させる。

場合によっては、送風機等の道具を使用し乾燥を促す。

【注意事項】

・本来は4か月以上の乾燥を良しとするが、最低でも1か月程度は、乾燥させる必要がある。また、夏は湿気、冬は凍結等も考慮し、乾燥期間を考えて作業を進める。



3 運営支援・協力団体

今回の災害では、『被災者中心』『地元主体』『協働』の災害支援の原則に基づき、倉敷市災害ボランティアセンター及びまび復興支援ボランティアセンターを多くの団体の皆様の参画により運営ができました。ともに運営していただいた皆様をできる限り掲載しました。

また、掲載はできておりませんが、多くの個人・団体の皆様から物資や資機材等のご提供、支援金のご寄付を頂戴し、災害ボランティアセンター及びまび復興支援ボランティアセンターを運営することができました。

(1) 行政【順不同】

倉敷市、岡山県、岡山県警察本部、鳥取県、南相馬市、丸亀市

(2) 社会福祉協議会、共同募金会【社会福祉法人省略、順不同】

①全国

全国社会福祉協議会、中央共同募金会

②ブロック派遣

【近畿ブロック】

滋賀県社会福祉協議会
長浜市社会福祉協議会
守山市社会福祉協議会
野洲市社会福祉協議会
東近江市社会福祉協議会
多賀町社会福祉協議会
京都府社会福祉協議会
舞鶴市社会福祉協議会
宮津市社会福祉協議会
長岡京市社会福祉協議会
京丹波町社会福祉協議会
宇治旧原町社会福祉協議会
大阪府社会福祉協議会
豊中市社会福祉協議会
泉大津市社会福祉協議会
枚方市社会福祉協議会
寝屋川市社会福祉協議会
箕面市社会福祉協議会
摂津市社会福祉協議会
島本町社会福祉協議会
兵庫県社会福祉協議会
尼崎市社会福祉協議会
洲本市社会福祉協議会
相生市社会福祉協議会
赤穂市社会福祉協議会
三木市社会福祉協議会
小野市社会福祉協議会
丹波篠山市社会福祉協議会
南あわじ市社会福祉協議会
宍粟市社会福祉協議会
猪名川町社会福祉協議会
播磨町社会福祉協議会

大津市社会福祉協議会
近江八幡市社会福祉協議会
栗東市社会福祉協議会
湖南市社会福祉協議会
米原市社会福祉協議会

京都市社会福祉協議会
綾部市社会福祉協議会
亀岡市社会福祉協議会
八幡市社会福祉協議会
南丹市社会福祉協議会

大阪市社会福祉協議会
池田市社会福祉協議会
高槻市社会福祉協議会
八尾市社会福祉協議会
松原市社会福祉協議会
柏原市社会福祉協議会
藤井寺市社会福祉協議会

神戸市社会福祉協議会
明石市社会福祉協議会
芦屋市社会福祉協議会
豊岡市社会福祉協議会
西脇市社会福祉協議会
高砂市社会福祉協議会
三田市社会福祉協議会
養父市社会福祉協議会
朝来市社会福祉協議会
加東市社会福祉協議会
多可町社会福祉協議会
市川町社会福祉協議会

彦根市社会福祉協議会
草津市社会福祉協議会
甲賀市社会福祉協議会
高島市社会福祉協議会
愛荘町社会福祉協議会

福知山市社会福祉協議会
宇治市社会福祉協議会
城陽市社会福祉協議会
京田辺市社会福祉協議会
木津川市社会福祉協議会

堺市社会福祉協議会
吹田市社会福祉協議会
貝塚市社会福祉協議会
富田林市社会福祉協議会
和泉市社会福祉協議会
門真市社会福祉協議会
四条畷市社会福祉協議会

姫路市社会福祉協議会
西宮市社会福祉協議会
伊丹市社会福祉協議会
加古川市社会福祉協議会
宝塚市社会福祉協議会
川西市社会福祉協議会
加西市社会福祉協議会
丹波市社会福祉協議会
淡路市社会福祉協議会
たつの市社会福祉協議会
稲美町社会福祉協議会
福崎町社会福祉協議会

神河町社会福祉協議会
香美町社会福祉協議会
奈良県社会福祉協議会
天理市社会福祉協議会
五條市社会福祉協議会
葛城市社会福祉協議会
三郷町社会福祉協議会
川西町社会福祉協議会
明日香村社会福祉協議会
天川村社会福祉協議会
和歌山県社会福祉協議会
橋本市社会福祉協議会
田辺市社会福祉協議会
高野町社会福祉協議会
みなべ町社会福祉協議会
那智勝浦町社会福祉協議会

太子町社会福祉協議会
新温泉町社会福祉協議会
奈良市社会福祉協議会
橿原市社会福祉協議会
生駒市社会福祉協議会
山添村社会福祉協議会
斑鳩町社会福祉協議会
田原本町社会福祉協議会
上牧町社会福祉協議会
川上村社会福祉協議会
和歌山市社会福祉協議会
有田市社会福祉協議会
新宮市社会福祉協議会
湯浅町社会福祉協議会
日高川町社会福祉協議会
太地町社会福祉協議会

佐用町社会福祉協議会
大和郡山市社会福祉協議会
桜井市社会福祉協議会
香芝市社会福祉協議会
平群町社会福祉協議会
安堵町社会福祉協議会
高取町社会福祉協議会
大淀町社会福祉協議会
海南市社会福祉協議会
御坊市社会福祉協議会
紀の川市社会福祉協議会
美浜町社会福祉協議会
白浜町社会福祉協議会
北山村社会福祉協議会

【中国ブロック】

鳥取県社会福祉協議会
倉吉市社会福祉協議会
智頭町社会福祉協議会
湯梨浜町社会福祉協議会
日吉津村社会福祉協議会
伯耆町社会福祉協議会
鳥根県社会福祉協議会
出雲市社会福祉協議会
安来市社会福祉協議会
飯南町社会福祉協議会

鳥取市社会福祉協議会
境港市社会福祉協議会
八頭町社会福祉協議会
琴浦町社会福祉協議会
大山町社会福祉協議会
日南町社会福祉協議会
松江市社会福祉協議会
益田市社会福祉協議会
雲南市社会福祉協議会
津和野町社会福祉協議会

米子市社会福祉協議会
岩美町社会福祉協議会
三朝町社会福祉協議会
北栄町社会福祉協議会
南部町社会福祉協議会
浜田市社会福祉協議会
大田市社会福祉協議会
奥出雲町社会福祉協議会
吉賀町社会福祉協議会

③岡山県内

岡山県社会福祉協議会
津山市社会福祉協議会
井原市社会福祉協議会
新見市社会福祉協議会
赤磐市社会福祉協議会
浅口市社会福祉協議会
里庄町社会福祉協議会
鏡野町社会福祉協議会
西粟倉村社会福祉協議会
吉備中央町社会福祉協議会

岡山県共同募金会
玉野市社会福祉協議会
総社市社会福祉協議会
備前市社会福祉協議会
真庭市社会福祉協議会
和気町社会福祉協議会
矢掛町社会福祉協議会
勝央町社会福祉協議会
久米南町社会福祉協議会

岡山市社会福祉協議会
笠岡市社会福祉協議会
高梁市社会福祉協議会
瀬戸内市社会福祉協議会
美作市社会福祉協議会
早島町社会福祉協議会
新庄村社会福祉協議会
奈義町社会福祉協議会
美咲町社会福祉協議会

④その他

石巻市社会福祉協議会、つくば市社会福祉協議会、東京都北区社会福祉協議会

(3) 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)【順不同】

日野ボランティア・ネットワーク 山下 弘彦氏
(公財) とっとり県民活動活性化センター 白鳥 孝太氏
(一社) Wellbe Design 篠原 辰二氏
NPO 法人 にいがた災害ボランティアネットワーク 李 仁鉄氏、野村 卓也氏、野村 祐太氏
NPO 法人 ローカル・コミュニティ 高田 克彦氏

(福) 親心会 戸河内あすなろ園 前 登宗氏
大阪狭山市議会議員 松井 康祐氏
(福) いわき市社会福祉協議会 篠原 洋貴氏
(一社) GreenDownProject 長井 一浩氏
(福) 片品村社会福祉協議会 千明 長三氏
さいばーとれいん 齊場 俊之氏
NPO 法人 やまがた絆の架け橋ネットワーク 早坂 信一氏

(4) 企業・NPO等【順不同】

①倉敷市外

日本赤十字社岡山県支部	(生協) おかやまコープ	(公財) 日本財団
(株) デンソー	トヨタ自動車(株)	(株) ダイナム
(株) SUBARU	ブリジストンサイクル(株)	エム・ビー・エス(株)
(株) ドコモ	KDDI(株)【au】	(株) パナソニック
リコージャパン(株)	旭化成アドバンス(株)	(株) ゼンリン
(株) アイスライン	(株) エイチ・エス・ピー	(株) トラストバンク
(株) クラレ	(株) ホンダ四輪販売岡山	岡山ダイハツ販売(株)
ケルヒージャパン(株)	(公社) 岡山県看護協会	NPO 法人遠野まごころネット
技術系プロボノ真備ベース	災害NGO 結~Yui~	風組関東
災害NPO ラブ&アース	災害NPO 旅商人	いのりんジャパン
チーム西やん	ボランティア団体 TEAM 桃太郎	NPO 法人 SEEDS OF HOPE
フォルクスワーゲングループジャパン(株)	ワークスモバイルジャパン(株)【LINENETWORKS】	
損害保険ジャパン日本興亜(株)	(一社) 情報支援レスキュー隊 IT DART	
住友三井オートサービス(株)	ノートルダム清心女子大学	
(一社) ピースポート災害支援センター	NPO 法人岡山NPOセンター	
(公財) 日本国際民間協力会 NICCO	NPO 法人グッドネーバーズ・ジャパン	
(一社) 岡山県ベストコントロール協会	(一社) ロハス南阿蘇たすけあい	
(公社) 岡山県社会福祉士会	おかやま在宅保健師等の会「ものの会」	
聖さくら学院よつ葉保育園	岡山中央冷蔵(株)	
(一社) 岡山県冷凍空調協会	NPO 法人みんなの集落研究所	
災害支援ネットワークおかやま	真備町写真洗浄@あらいぐま岡山	
認定NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク【JVOAD】		
NPO 法人シャブラニール=市民による海外協力の会		
技術系災害ボランティアネットワーク DRT JAPAN		
NPO 法人 MAKE HAPPY 災害復興支援プロジェクトめ組 JAPAN		

②倉敷市内

(株) 仁科百貨店	中谷興運(株)	(株) いのうえ
(公社) 倉敷青年会議所	(福) 倉敷市総合福祉事業団	倉敷市市友会
(有) マビ薬局	ファミリーマート真備店	呉妹診療所
長御崎神社	老龍園緑化(株)	
JXTG エネルギー(株) 水島製油所	倉敷高齢者・障害者権利擁護ネットワーク懇談会	
(一社) 高梁川プレザンターレ	(公財) 倉敷市保健医療センター	
技術系災害ボランティアチーム奥ちゃん	倉敷市民生委員児童委員協議会	
倉敷市愛育委員連合会	倉敷市栄養改善協議会	
倉敷市ボランティア連絡協議会	倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会	
倉敷市環境衛生協議会	くらしき市民防災ネットワーク	
コスモタウン広江町内会	真備地区内まちづくり推進協議会	
倉敷市内各地区社会福祉協議会		
(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構岡山支部	中国職業能力開発大学校	

第2章 ご支援いただいた皆様(なかま)からの声

平成30年7月豪雨災害では、たくさんのボランティアや企業、NPO・NGOの皆様が倉敷市へ駆けつけて下さいました。

一緒に支援活動を行った日々を思い返すと、皆様の温かい気持ちや力強い後押しを我々は忘れることはできません。

災害ボランティアセンターの運営支援等に協力くださった団体の方や、ボランティアの皆様から支援いただいた地元(被災地)住民組織の方からコメントをいただきましたので、ご紹介いたします。

1 運営支援・協力団体

倉敷市ボランティアセンターの設置・協力

7月6日、岡山県では大雨が降り続き各地に甚大な被害をもたらした。とりわけ中国職業能力開発大学校(以下「中国校」という。)の所在する倉敷市、特に真備町では、地域内を流れる河川の堤防が決壊し大規模な浸水被害が発生した。

7月10日に当校に倉敷市社会福祉協議会(以下「社協」という。)より、倉敷市災害ボランティアセンター(以下「センター」という。)の設置依頼があった。施策的な話ではあるが明日から開設をお願いしたいとの要望であり、時間が無い中、機構本部・厚生労働省等と連絡を取りながら調整を図り、当校の業務に支障の出ない範囲で開設に協力することとなった。

7月11日の開設時、早朝からボランティア参加者(約150人程度)、報道陣が殺到したため、大混乱となった。また、当初は手探り状態でスタートさせた「センター」ではあるが、各関係団体等が出席する朝・夕のミーティングにより、体制・連絡が行き届くようになり、徐々にではあるが、ボランティアの受付も順調に行えるようになってきた。

土日祝日については、会場を提供している側の責任、有事の際の意思決定を早めるため、管理職が交代で対応を行ったが、被災後の最初の三連休には、一気にボランティア参加者が千人単位へと膨らみ、センターは混乱していた。

一方、当校の業務も並行して実施しており、業務に支障をきたさないように取り組むのに苦労した。それ以降は、社協と中国校で協議し、迅速な解決に努めていった。

結果として、106日間(活動休止日も含む)約57,000人のボランティア参加受付数を記録した。

色々と混乱も招き、苦勞もあったが、センターの運営に協力できたことは、同じ公的な機関として誇れることだと思っている。

また、その経験は大きな財産となったであろうし、万が一ではあるが、次に災害が起こった際にも協力できるモデルケースになったのではないかと考えている。

最後に、当校職員一同引き続き真備の復興に向けて毎日頑張っておられる方々に敬意を表しますとともに、1日も早い真備の復興を願うものです。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構岡山支部 中国職業能力開発大学校
校長 塚本 眞也さん



協働を实践

7月豪雨災害は、県内各地に甚大な被害をもたらした。本県にとっても未曾有の災害となりました。本会では発災後、現地に職員を派遣し、倉敷市災害ボランティアセンターの立ち上げや運営を支援させていただくとともに、県内市町村社協、また、全社協等を通じ、県外社協からの災害ボランティアセンター運営スタッフのブロック応援派遣をいただき、社協の持つネットワークを活かした支援活動を展開してきました。

倉敷市災害ボランティアセンターでは、民生委員児童委員、NPO団体など、多様な主体との協働による運営がなされたことで、ピーク時には1日2,000名を超えるボランティアの受入れを行うとともに、継続的な要配慮者の支援や交流・居場所づくりなどの取り組みにも活かされたと考えています。



今後も、被災された方々が一日も早く日常を取り戻すことができるよう、本会としても、岡山県や倉敷市社協をはじめ、関係機関・団体と連携を図りながら、被災者の見守り相談支援に取り組むとともに、災害を風化させることなく、災害の経験を今後の地域福祉活動にも活かしていきたいと考えています。

社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
会長 足羽 憲治さん

じぶんの町をよくするしくみ

平成30年7月豪雨災害は岡山県内にも甚大な被害をもたらした。特に倉敷市真備町では堤防決壊等による浸水被害が広範囲におよび未曾有の大災害となりました。

災害発生時から、倉敷市社会福祉協議会では関係機関と連携し、被災者の生活不安を解消するため、災害ボランティアセンターを設置するなど迅速な対応がなされました。

岡山県共同募金会においても、「災害等準備金」を活用し、全国からの災害ボランティアの受け入れや機材の整備など社会福祉協議会による災害ボランティアセンターの運営に、県内総額79,850,000円(うち倉敷市社会福祉協議会は47,000,000円)を資金援助しました。

今後とも、「被災者ささえあい活動助成事業」の実施など、地域の復旧、復興を引き続き支援していくとともに、日常の地域福祉活動への助成は元より、いつ起こるか予測のつかない災害に対し支援体制を整えてまいります。

赤い羽根共同募金



社会福祉法人 岡山県共同募金会
会長 藤本 道生さん

近畿ブロック社会福祉協議会の総力を挙げた災害支援の取り組み

平成30年7月豪雨災害で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

発災から1年半が経過し、これまでの倉敷市社協の皆様のご尽力と奮闘に、心から敬意を表します。被災地では復興に向けた生活支援・地域福祉の取り組みが進んでいることと思います。

さて、近畿ブロックの2府4県3指定都市社協では、災害により甚大な被害が発生した場合、「災害時の相互支援に関する協定」に基づき、相互支援の精神により、地域福祉をすすめる社協の特性を発揮して救援活動を行うこととしています。

7月豪雨災害では、大阪北部地震に加え、豪雨により近畿ブロック内でも被災した市町がありましたが、幸いにも比較的被害は甚大ではありませんでした。このため、全社協のブロック幹事社協会議で、近畿ブロックが岡山県のカウンターパートに決定されてからは、現地ニーズに応じた職員派遣を実施しました。

7月20日から10月28日まで計22クール、倉敷市には延べ442名の職員を派遣し、災害ボランティアセンター等の運営支援等を行ってきました。現地では、中国職業能力開発大学校に設置された「災害ボランティアセンター本部」の運営に加えて、被害の大きな地域に3つのサテライトを立ち上げ、灼熱の中、テントを張って、ボランティアとともに近畿ブロック社協職員のコミュニティワーク力を活かした支援活動が継続されました。

近畿ブロックからの職員は、岡山県に行ったことはあっても、被災地の倉敷市真備町を訪れるのは初めての職員も多く、情報も災害発生後のマスコミ報道等の限られたものだけでした。外部支援者である近畿ブロックからの職員が社協らしい取り組みができたのは、地元の倉敷市社協の普段からの地道な地域福祉活動の基盤があったからこそです。

現在は「まび復興支援ボランティアセンター」での活動に移行していますが、復興支援の取り組みが地域福祉に活かされていくことを期待しています。

櫛（たすき）をつなぐ、倉敷市社協の取り組みを、これからも応援しています。

社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会（近畿ブロック府県・指定都市社協 平成30年度幹事）
会長 吉本 知之さん

チーム力を発揮された災害ボランティアセンター

災害ボランティアセンター（以下災害VC）は社会福祉協議会（以下社協）が中心となり開設することが一般的となっており、被害の規模によっては全国の社協職員が運営支援として現地に派遣されます。

本会は派遣調整当番県となっていたため、先ずは情報収集に徹していましたが、頭をよぎったのは東日本大震災級の支援が必要となるだろうということで、約二週間後には全国の社協職員による運営支援も開始されました。

倉敷市災害VCに集うボランティア数は最大級であり、受付開始30分で受付会場の体育館がボランティアで埋め尽くされる光景が続いていました。

社協職員のほか、NPOや地元協力団体等と協力し復興へ向けて一体となって活動されており、夜間には支援関係者が定期的に集まり情報共有にとどまらず、社協職員さんによる復興へ向けた思いを披露されている姿が印象的でした。

住民への寄り添いを大切にされている貴会の益々のご活躍を祈念しております。

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会（中国ブロック県・指定都市社協 平成30年度幹事）
総務部 副部長 川瀬 亮彦さん



「歩みとともに」

7月8日朝から岡山県社協の方と被災地域を回って状況確認や支援の相談をし、倉敷・真備に入れたのは10日だった。各市町の方とも、自らの被災、避難所対応による不眠、事務所近辺の被災など困難を抱えておられた。

真備の甚大な被害を目の当たりにして、状況に応じた支援体制をつくること、暮らしと町が落ち着きを取り戻していくために息の長い支援がどうできるかを考えた。

併せて、水島・児島地区、県内広域にわたって被害があることから、被害の規模にかかわらず困難を抱えた方に目を向けるよう努めること、お互いの状況を理解し合いながら相互に支援していく大切さを考えた。



実際に倉敷市内では、被災された方も含めて地元の方が大きな力となり、支援に必要な外部の力も借りてここまでの道のりをたどってきている。多くの困難がありながら何とか元気を取り戻してきた他の被災地の取り組みも学びながら、倉敷・真備のペースで歩みをともしていきたいと思います。

日野ボランティア・ネットワーク 山下 弘彦さん
（災害ボランティア支援プロジェクト会議）

「信頼、尊重し合い、チャレンジし続けるチーム」

真備町で一緒に活動した倉敷市社協のみなさんを思い浮かべたとき、最初に出てきた言葉です。災害支援は、前進もあれば、大きな壁に直面することもあります。見過ごしたくなる事案もあります。ただ、倉敷市社協は失敗を恐れるよりも、常に「誰の、何のための支援か」という姿勢がぶれることはありませんでした。人を信じ、尊重し合う。そして住民が自ら動くことを支える。日頃から地域と向き合い、住民との対話を続けている地元社協の活動が、災害ボランティアセンターの運営という予期せぬ場面でも発揮されたのだと思います。専門家による仕事を



士業と呼びますが、被災地支援や地域福祉に大切なのは「志業」。その志こそが、多様な連携を生み、限界以上の支援につながると身をもって教えてくれました。

真備のみなさんが心から安心して暮らせること、そして今回の経験を次に活かすため、これからも運命共同体として切磋琢磨できることを期待しています。

一般社団法人 ピースボート災害支援センター
西日本豪雨災害支援 現地責任者 辛嶋 友香里さん

三者連携による協働のボランティアセンター運営

9日（発災3日目）の災害支援ネットワークおかやまの初の県域の情報共有会議を開催しました。その時に倉敷市社協からも参加いただき、支援Pを始めとした外部支援組織も顔を合わせたことが今回の支援のはじまりでした。11日のボラセン開設以降、NPO法人みんなの集落研究所のスタッフと救護班を立上げ、保健師と医療関係の専門ボランティアで、現地に入るボランティアのみなさんの熱中症対策、在宅で避難されている方たちの見守りに取り組みました。また、災害ボランティアセンターのHP作成協力、FB投稿等の情報発信を担当。さらに、サテライトや、ボラセン内の班の連絡にはLINE WORKS、ボランティア受付にWEB受付システムを導入するなど、各部署間のリアルタイムでの連絡を可能にするなど、運営業務の効率化を図りました。さらに、8月からは、おかやまコープ、PBVと協働で被災者生活支援班をボラセン内に立上げ、ボラセンに集まる支援を、各地区に配置された社協職員さんを通して地域につなぐことができました。災害支援ネットワークおかやま@くらしき会議では、ボラセンで週1回の情報共有会議を実施させていただき、行政と社協、真備の被災者支援に取り組む団体での情報共有を行い、「まび新春まつり」などイベントも実施させていただきました。



振り返ると倉敷市災害ボランティアセンターは協働を実現できたボランティアセンターだったと感じております。2019年の新見豪雨災害では、このセンターを通じて一緒に活動していた各所のスタッフが、自然に協働して支援を行えたことから、地域力の向上にも貢献していたと伺えます。それは、台風19号の災害支援においても長野や福島で機能しています。

引き続きこの経験を活かし、社協のみなさんと共に、地域の災害対応力の向上に取り組みたいと思っております。

特定非営利活動法人岡山 NPO センター
詩叶 純子さん

協働 ～支援者の限界が災害支援の限界ではないことを願い～

発災直後に目にした見渡す限り2階まで浸水した真備の光景は、今でも強く印象に残っています。これは大変な規模の被害だと感じ、そこから約1ヶ月、被害状況の把握・災害ボランティアセンターの運営支援・重機案件の調整をしました。広域に甚大な被害が発生したため、長期的に真備に張り付くということが叶いませんでしたが、8月以降も定期的に訪問し、現地支援者が情報共有し長期的に協働できるような環境整備を補助しました。たまたま発災の約1年前に岡山の災害ボランティアセンター運営者研修で関わり、ご挨拶させていただいた方が何人もいらっしゃいました。その時のご縁が、発災直後の情報収集と状況共有、災害ボランティアセンター運営体制への助言などに繋がり、円滑な支援活動が実現した一因だと思っています。



今も活動を続ける災害NPO旅商人も、以前から交流がありました。彼らやこの災害で知り合った支援者たちのサポートという形で、今後も遠くから細く長く真備を想いながら関わりたいと思います。

災害NGO 結～Yui～ 前原 土武さん

個性の数だけ、支援の種類がある。

現場コーディネーターとして、被災者さんと支援者さんの繋ぎ役に。



発災後7月12日に埼玉から現地入りし、地元倉敷出身の災害NPOということで、これまで被災地で共に活動したNPOなど外部支援団体と、今回立ち上がった地元の仲間達の繋ぎ役になれるよう努めながら、災害ボランティアセンター「下有井サテライト」「旭町サテライト」の運営、大工・重機など技術案件の調整・対応、また移動喫茶を活用したコミュニティ再建のお手伝いや復興イベントの開催など、変わり続ける状況の中で少しずつできることお手伝いしてきました。

発災からの月日の経過と共に、街に少しずつ灯りは戻ってきた一方、未だ生活再建への大きな決断ができていない方、世間との温度差に精神的疲労が増しておられる方が大勢おられるのが現状です。また、多感な時期に災害を経験した、真備の未来を支えることも達のケアにも今後一層注力していく必要があると感じています。今後もできることお手伝いしていきたいと思っております。

災害NPO旅商人 原 亮章さん

「め組 JAPAN 真備町での活動報告」

め組 JAPAN ではボランティアビレッジの運営と技術系ニーズの対応を主に活動しました。

ボランティアビレッジでは、真備美しい森をお借りし、テントサイトを作り、真備町内に来たすべてのボランティアさんのテントサイトの利用受け入れを2018年7月20日～10月21日までの3ヶ月間行い、1,188名の方に利用していただきました。



発災直後は宿泊施設の不足が問題になっていましたが、ボランティアビレッジのテントサイトを利用していただくことで問題解決の一端を担うことができました。

技術系ニーズの対応では、川辺地区の社協さんの神社ミニサテライトがある同じ敷地にサテライトを構えることができたことで、人員や、技術面等の不足を補い合いながら、お互いの強みを活かしワンチームでニーズマッチングできたことが被災者の安心感やボランティアに来た方の満足感や達成感を生み、スムーズにニーズの対応が出来たと思います。

発災から1年3ヶ月間ですが真備町の復旧作業に関わり、当団体に関わった住民さんのほとんどが自分の家に戻ることができましたが、本当の意味での復興はこれからだと思います。これからも住民さんが何か困ったことがあれば声を掛けてもらえるような距離感で見守り続け真備町の復興を応援していきたいと思っております。

NPO法人MAKE HAPPY 災害復興支援プロジェクト め組 JAPAN
今井 健太郎さん

「真備のみんなが笑顔になる」それが赤十字の願い

赤十字社が行った活動は、医療救護、DMAT派遣、支援物資提供、心のケア、災害ボランティア活動、義捐金、寄り添い支援など多方面にわたりました。

その中で、私達災害ボランティアは、他団体との連携を重視しながら倉敷市社会福祉協議会が開設した災害ボランティアセンター運営において、記録的猛暑の中で全国から集まったボランティアの熱中症を予防するための活動（バスの中や、ハーバーランド駐車場でも行う）や、作業を終えて帰って来た時の健康チェック、声掛け、衛生面でのうがいの提供、氷の仕分けに氷の作り、看板



作り、駐車場の整備、子供たちのお世話、施設内掃除など目に見えない所でも活動してきました。

また、寄り添い支援活動は未だ続けています。

最近では「いつも笑っていこう！」と被災した方から前向きな声を聞くことができました。「真備のみんなが笑顔になる」それが私達赤十字社の望みなのです。

日本赤十字社岡山県支部防災ボランティア
防災ボランティアリーダー 加藤 典子さん



「被災地の方々がふだんのくらしを取り戻すまで、

息の長い支援活動を続けたい」

災害ボランティアセンターでは、災害ボランティア活動の経験や知識のない私たちに、細やかなお気遣いやアドバイスを頂戴しましたこと、心より感謝申し上げます。また、災害直後から現在に至るまで、被災者一人ひとりに寄り添い、被災地復興にむけてたゆまぬ努力をされる様子に感銘を受けております。

当時の経験が、現在もおかやまコープで継続している被災地サロン活動をはじめ、台風19号で甚大な被害をうけた長野県の長野市ボランティアセンターへの運営支援派遣などにもつながっています。特にさまざまな他団体とつながり“顔の見える関係”が築けたことは、多様化する支援ニーズに応える上でも、大きな力となっています。

生協と社会福祉協議会は、住民（組合員）のために、地域に根差した活動をすすめるという根幹は同じで、取り組みの親和性も高いと感じています。今後とも被災地の復興を進めるため、様々な分野での協力をすすめていければと存じます。

生活協同組合おかやまコープ 組合活動グループ
福尾 泰平さん



がんばろう、倉敷市・真備

このたびの災害により被災された真備町の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

弊社は、7/27～8/31、9、10月の週末の計45日間、常時2名以上の社員が災害ボランティアコーディネーターとして神社ミニサテライト、新田ミニサテライトの運営をさせて頂きました。真夏の35℃を超える暑さの中、お宅の片付けをされている被災者の皆様に少しでも寄り添えるようにしたい。ニーズを丁寧にお聞きし、全国から訪れるボランティアさんのスムーズな活動につなげたい。そんな思いを胸に、ご要望に関する進捗



度合いを住宅地図上で視えるようにするなど、仕事で培った改善を織り込みながら復旧のスピードアップを心掛けました。訪問の際にはいろいろな話をさせて頂いたり、時にはご指摘を頂いたりもしましたが、優しく温かい真備の皆さんとのご縁は、社員にとって非常に貴重な財産になっております。まだまだ復興までは時間が必要かと思えます。愛知からいつも応援しております。

トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部 プログラム推進室 ボランティア支援グループ
主幹 担当課長 森川 裕彦さん



企業による地域貢献

平成30年7月豪雨により被災された皆さまに、謹んでお見舞いとお悔やみを申し上げます。

デンソーでは、発災から3ヶ月後の10月11日から12月28日までの79日間、総勢52名の社員が、箭田サテライトと川辺の本部で運営側のボランティアをさせて頂きました。

活動内容は、前半は資材班を、後半はマッチング班を担当させて頂きましたが、活動だけではなく当社で引継ぎまで完結できるように有休を取得した社員を常時2名配置し、企業での帯の支援を実現しました。また、運搬用の2トトラックとボランティアの送迎用車両を無償貸与し、運営に役立てて頂きました。

今回の活動は、当社として初めての試みでしたが快く受け入れて頂き大変感謝しております。おかげさまで被災地支援のしくみづくりのきっかけとなりました。

今後は、多くの企業のモデルケースとなれば幸いです。

一日も早く真備町民のみなさまが元の生活に戻れますよう、心よりお祈りいたします。

株式会社デンソー 総務部 インナーアクティベート室 アーカイブズ課
担当係長 矢吹 勇治さん



「私たちにできること」



弊社パソナ岡山は人材派遣、委託を主業務とする人材サービス会社です。そして企業理念は「社会の問題点を解決する」そのため通常よりボランティア活動やCSR活動を積極的に行っていました。今回の発災にあたり、私の所属する「倉敷コールセンター」部門では、「体力のない私達でも何かできることはないか」と模索し、縁あって、被災後の初連休7/13～15の3日間、合計24名にてボランティアセンターのお手伝いをさせて頂きました。私達の強みである電話対応を活かさない手はない、ということで、電話機5台をフル利用し、電話班を形成、対応しました。主に行った活動は①マニュアル・FAQ・帳票類の作成 ②ボランティア希望の方の問合せ対応 ③支援物資・活動の受付・確認・受入れ。この活動を通し、全国からの温かい支援を肌で感じることができました。また一体感と熱さの中でそれぞれができることを精一杯行ったあの経験を活かし、今後の活動に繋げていきます。



株式会社パソナ岡山 BPO 事業部
部長代理 萩原 美貴子さん

最も身近な相談役に

平成30年7月豪雨災害が発生し、我々民生委員児童委員協議会としては、避難所の運営のほか、平成30年7月11日に開所したボランティアセンターの運営に、令和元年7月末まで協力してまいりました。

民生委員・児童委員として日々、地域住民に寄り添いながら活動していますが、これからも皆さんの最も身近な相談役として地域福祉の向上を図ってまいります。

被災された地域の、より早い復興を心からお祈り申し上げます。



倉敷市民生委員児童委員協議会 会長 江良 克彦さん

大切な地域の「つながり」

7月下旬から約2か月間、災害ボランティアセンターの応援スタッフとして、毎日4～5名の愛育委員が活動しました。具体的には、ボランティアの方々に被災地に送り出し、また活動終了後には冷たいおしぼりと飲み物を笑顔でひと声掛けて渡しました。

今回の災害の経験から、住民同士・関係機関との関係づくりの大切さを改めて気づくことができました。

今後も「つながり」を大切に、地域で健康づくりを推進していきたいと思っております。



倉敷市愛育委員連合会 会長 佐藤 千津子さん

共助のこころ

平成30年7月10日夕方、社協から電話があり、明日からポリテクカレッジに災害ボラセンを開設するからと、周辺の草刈りを依頼された。急いで長尾地区社協会員を集め、なんとか日の沈む前に整備を終えた。

11日からボランティアの方がやってきて、私達は運動場への誘導と整理に奔走した。午後からはボランティア活動を終えた人達の洗浄消毒活動に従事した。

そこで、初めて水害の生々しい様子に直面した。その後1年以上に及ぶ支援活動であった。少しでも早い復興を願います。

長尾地区社会福祉協議会 前会長 田邊 裕宥さん



本荘地区社会福祉協議会の真備地区支援活動報告

本荘地区社会福祉協議会は、災害復旧支援活動の協力を決め、43名のボランティアを募り、7月19日から10月21日(倉敷市災害ボランティアセンター開設最終日)まで毎日、2名から6名前後で約4か月間、延べ人数251名の方々と活動した。

私たちの活動は、午前にはボランティアが現地に行く前のマッチング業務を受け持った。午後は、現地から帰ってくるボランティアの長靴洗浄、消毒や飲物配布を行った。また、スイカを15個、ボランティアに振舞った。

また、本荘地区各団体、個人の皆様から提供していただいた衣類、食器、洗剤等の物資を倉敷市等に届けるなど物資提供の活動も行いました。

これらの活動を通じて本荘地区のボランティア潜在意識の発掘、人との繋がり、思いやり、そして、組織力の「絆」の強さを改めて感じています。

本荘地区社会福祉協議会 会長 森 富弘さん



私たちの願いは真備の復興

平成30年7月の豪雨災害は、倉敷市がこれまでに経験したことのない規模の災害となりました。被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。

倉敷市ボランティア連絡協議会は、倉敷市災害ボランティアセンター立ち上げ当初から、ニーズ班として被災者の方からの電話対応や災害ボラセンが真備地内へ移転後も支援物資の仕分けや提供等の支援をさせていただきました。また、研修会や他市との交流会などを通して災害支援について情報共有を図り、私たちは、真備復興の協力をしていきます。

倉敷市ボランティア連絡協議会 会長 森本 和子さん



今回の災害を忘れてはならない

災害ボランティアセンターの立ち上げ時から運営の手伝いを経て、2か所のサテライト(呉妹、その・かわべ)の運営に連日2～3名の会員を動員しました。徐々に私たちもどう動いたら良いか分かってきましたが、サテライト内は猛暑と粉塵で劣悪な環境で大変だったことを今でも覚えています。その後、1年間センターの運営を手伝いました。今回の支援活動を通して感じたことを、無駄にせず講義などを通して周りの人に伝えて行こうと決心しました。

真備の人達には早く元の生活を取り戻し元気な真備になることを願っています。

倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会 会長 松永 良平さん



「真備の災害・復興を支援して～災害ボラセン救護班活動～」



平成30年7月26日から翌年3月末まで倉敷市社協の依頼を受けボラセン救護班の調整や救護活動を社協の方と協力し従事しました。当初は届いた水を救護にどれだけ確保するか、頭も腰も痛かったです。県外から多くの看護師等が支援に来てくれる中①猛暑の作業で重篤な熱中症や外傷を住民、ボランティアに一人も出さない②いかなる時も住民の声をキャッチ、フォロー、関係機関との連携を目標に活動しました。多くの方のおかげで役割を果たすことができました。

「全国の皆様、本当にありがとうございました。」

公益財団法人倉敷市保健医療センター 総括センター長 篠原 淑子さん

何かお手伝いしたい。その思いだけで・・・

昨年7月の豪雨災害後、私たちの主な復興支援の活動としては、

1. 災害ボランティアセンターの必要設備（トイレ・扇風機・発電機など）の調達及びその設置、管理など
 2. ボランティアの皆様が必要備品（マスク・ゴーグル・タオル・館・飲料水など）の調達、管理、配布など
 3. 市役所本庁での支援物資の仕分け・管理など
- 以上、3つが主な私たちの活動でした。

今後も、何か私たちにお手伝いできることがありましたら、いつでもお声掛けください。

くらしき市民防災ネットワーク 代表 丸口 晋司さん



ボランティアの皆さんに感謝！



「広江サテライト」の作業は、例年になく日差しが強く、痛いと感じたものでした。その中での作業はボランティアの方から朝の涼しい時間に作業をしたいとの要望もあり、作業開始時間を早めました。また、ボランティアさんも休憩する班と作業する班の2交代制を採用し常に作業しているシステムを行ったのは広江独自の運営であったと思います。

災害が起こるたびに、今回の体験を風化させず率先避難者であって欲しいものです。

倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会 水島支部長 城内 豊司さん

組織の垣根を越えて

災害ボランティアセンターでは、市災害対策本部のほか、ごみ処理担当部署、消毒担当部署、各施設所管部署、各避難所等、さまざまな市の関係部署との連絡調整が必要となる。そのため、発災当初から市と災害ボランティアセンターとの連携・連絡調整を図れるよう、市職員がリエゾンとして派遣された。民間ボランティア団体に対し、被災地の被害状況、被災者再建支援金や仮設住宅などの公的支援等の情報提供を行ったほか、被災地域に入る民間ボランティア団体からの情報を、市にフィードバックする役割も担った。

倉敷市 企画経営室 主幹 大橋 俊文さん（倉敷市リエゾン）



2 地元(被災地)住民組織

明日に向かって



被災した家屋の片付けに四苦八苦している7月中旬、災害ボランティアセンターのサテライトが服部地区にも設置されました。サテライトのリーダーの皆さんは、積極的に地区を回り、被災状況の調査とボランティアニーズの掘り起しに取り組んでくれました。私も地域住民として数回リーダーに同行しましたが、既にボランティアを要請し待っている人、要請方法を知らない人、どこまでの作業をお願いしたら良いのか困惑している人など様々でしたが、リーダーの皆さんは素早く適切に対応してくれ、被災者の皆

さんは「おかげで助かった」と喜んでいました。

9月以降半年間、「地区民集いの会」を定期的で開催しましたが、これに対しても、災害ボランティアセンターの皆さんに、炊き出しボランティアの紹介、テーブルや椅子の貸し出し、支援物資の支給などのご支援をいただきました。

この度の災害に対する災害ボランティアセンター及びボランティアの皆さんのご支援が、どれほど有難かったか言葉では言い尽くせません。心から感謝申し上げます。

感謝の心を忘れず、早期復旧・復興に向け、地区民力を合わせて頑張っていきます。



服部地区まちづくり推進協議会
会長 中尾 研一さん

本当にありがとうございました



各種団体の方が先頭に立ち、岡田サテライトの運営に協力し、ボランティアと一緒に被災住民宅を訪問する活動を行いました。ボランティアの方が全国から岡田サテライトに駆けつけて下さいました。

社協の職員さんの指導の下、地図上でボランティアの必要な人と、ボランティアの人とのマッチング作業をして、近くの方は各種団体の女性が歩いて案内し、遠くの方は男性が軽四トラックで送迎しました。

10日ほど経って、もう少し現地に案内してもらえる人がいたらと思い、チラシを作成し、50人ぐらいの人が集まってくれました。それぞれの人が活動可能な日程を表に書き込み、スムーズな活動ができました。

猛暑の中での作業の後に、休憩場所として岡田分館が必要でした。分館を利用できるようにいち早く片付けて、

ボランティアの人に冷たいタオルや飲み物を提供できたのは、関係者全員のおかげです。

ボランティアの皆様、社協の皆様、ありがとうございました。

これからも、岡田地区の住民が被災前の生活を取り戻せるよう頑張りますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



岡田地区社会福祉協議会
会長 前田 光男さん

コスモタウン広江土石流災害について



平成30年7月7日未明土石流災害では、私も町内会役員も、「まさかうちの団地が?!」という驚きばかりで、何をすべきか戸惑いは大きなものでした。

しかし、発災直後から、地元企業・小学校の先生等、地域の方々が次々とスコップを手に支援に駆けつけてくれたことに力を得て、発災3日目に集会所に「コスモタウン災害対策本部」を設置し、毎日5・60名のボランティアを受入れました。

町内会役員だけでは限界を感じていた時、災害VC連絡会・NPO・社協と多くの団体が協力して、災害ボランティアセンター「広江サテライト」が

開設することができ、より多くのボランティアの参加を得られるようになり、大変助かりました。

運営では意見を出し合い、町内会を挙げて参画したこと等、初経験の事ばかりでしたが、「地域の繋がり」「他団体との協力」何より「日頃の備え」の大切さを今後の町内会活動に役立て引継いでいけたらと感じています。

活動期間土日祝日で延べ5日間、965名の皆様大変ありがとうございました。

コスモタウン広江
前町内会長 樫野 喜治さん

あの日、あの時、あの場所で・・・



第3章 資料

1 平成30年7月豪雨災害について

(1) 概況

【7月6日から7月7日にかけての経過（エリアメールの経過）】

日時	発信者	内容
7月6日(金) 0時52分	倉敷市災害対策本部	土砂災害警戒情報 こちらは倉敷市です。土砂災害のおそれが高まっているため、近くに崖や山がある場合は、家の中の山から離れた部屋、もしくは山から離れた2階以上の部屋に避難してください。
7月6日(金) 11時29分	倉敷市災害対策本部	避難情報(児島・玉島・水島) こちらは倉敷市です。今後、土砂災害のおそれが高まるため、7月6日11時30分、山沿いを対象に避難準備・高齢者等避難開始を発令します。
7月6日(金) 11時32分	倉敷市災害対策本部	避難情報(倉敷・船穂・真備) こちらは倉敷市です。今後、土砂災害のおそれが高まるため、7月6日11時30分、山沿いを対象に避難準備・高齢者等避難開始を発令します。
7月6日(金) 18時31分	倉敷市災害対策本部	避難情報(吉岡川・倉敷川) こちらは倉敷市です。梅雨前線による大雨により、児島湖の水位が下がりにくい状況となり、今後、吉岡川・倉敷川の水位が上昇する恐れがあります。18時30分をもって避難準備情報・高齢者等避難開始を発令しました。避難に時間のかかる方は、準備をして避難を開始して下さい。
7月6日(金) 19時27分	倉敷市災害対策本部	避難勧告(児島・玉島・水島) こちらは倉敷市です。梅雨前線により大雨が降り、土砂災害の危険が高まっているため、19時30分、倉敷市内の山沿いを対象に避難勧告を発令します。山沿いにお住まいの方は、避難を開始してください。
7月6日(金) 19時28分	倉敷市災害対策本部	避難勧告(倉敷・船穂・真備) こちらは倉敷市です。梅雨前線により大雨が降り、土砂災害の危険が高まっているため、19時30分、倉敷市内の山沿いを対象に避難勧告を発令します。山沿いにお住まいの方は、避難を開始してください。
7月6日(金) 21時59分	倉敷市災害対策本部	避難勧告(真備) こちらは倉敷市です。梅雨前線により大雨が降り、高梁川の急激な水位上昇に伴って、小田川の水位も急激に上昇しています。22時00分に真備地区全域に避難勧告を発令します。避難場所は、岡田小、茵小、二万小です。速やかに避難をお願いします。
7月6日(金) 22時01分	国土交通省	河川氾濫のおそれ 高梁川の奈(総社市)付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。堤防が壊れるなどにより浸水のおそれがあります。防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください。本通知は、中国地方整備局より浸水のおそれがある市町村に配信しており、対象地域周辺において受信する場合があります。
7月6日(金) 22時40分	気象庁	特別警報発表 岡山県に特別警報(大雨)。最大限の警戒をしてください。新たに特別警報の対象となった地域があります。テレビ、ラジオ及び自治体等の情報をご確認ください。(7月6日22時04分 岡山地方気象台発表)

日時	発信者	内容
7月6日(金) 23時49分	倉敷市災害対策本部	避難指示(真備・小田川南側) こちらは倉敷市です。現在、小田川の水位が急激に上昇し、小田川の南側が氾濫するおそれがあります。このため、23時45分に真備地区・小田川の南側にお住いの方に避難指示を発令します。避難場所は、真備総合公園体育館、岡田小、萬小、二万小です。すみやかに避難をお願いします。
7月7日(土) 0時15分	倉敷市災害対策本部	避難勧告 こちらは倉敷市です。高梁川の水位が急激に上昇しているため、7日0時00分、次の地域を対象に避難勧告を発令しました。対象地域は、中洲小学校区、万寿小学校区、倉敷東小学校区、菅生小学校区です。対象地域の住民の方は、中洲小、万寿小、倉敷東小、東中、菅生小の校舎3階以上、およびイオンモール倉敷の立体駐車場に避難してください。避難の際には、水路への転落などに注意してください。
7月7日(土) 0時47分	国土交通省	河川氾濫発生 小田川の倉敷市真備町箭田(右岸)付近で河川の水が堤防を越えて流れ出ています。防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください。本通知は、中国地方整備局より浸水のおそれがある市町村に配信しており、対象地域周辺においても受信する場合があります。
7月7日(土) 1時36分	倉敷市災害対策本部	避難指示(真備・小田川北側) こちらは倉敷市です。小田川の北側に避難指示を発令しました。箭田付近で高馬川の堤防が越水し、小田川から水が高馬川の北方向に流れ込んでいます。ただちに高台に避難してください。
7月7日(土) 1時47分	国土交通省	河川氾濫のおそれ 高梁川の酒津(倉敷市)付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。堤防が壊れるなどにより浸水のおそれがあります。防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください。本通知は、中国地方整備局より浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺においても受信する場合があります。
7月7日(土) 1時47分	倉敷市災害対策本部	避難勧告(倉敷・庄地区) こちらは倉敷市です。現在、足守川の水位が上昇しているため、1時30分に避難勧告を発令しました。対象地域は、矢部・日畑地区です。避難場所は、中庄小学校となります。避難場所への避難が危険な場合は、屋内の2階に避難してください。
7月7日(土) 4時07分	倉敷市災害対策本部	避難指示(真備地区) こちらは倉敷市です。現在、真備地区全域に避難指示(緊急)を発令しています。直ちに高台に避難してください。

(2) 被害等の状況 ※平成30年7月豪雨災害 対応検証報告書(倉敷市)より引用

- ①浸水域・浸水深
浸水域 約1,200ha/真備町面積約4,400ha
浸水深 最大約5m(推定値)
- ②人的被害(2019年4月5日時点:倉敷市全体)
死亡者(うち災害関連死) 59人(7人)
重症 9人
軽傷 111人
- ③住家被害(2019年4月5日時点:倉敷市全体)
全壊 4,646棟
大規模半壊 452棟
半壊 394棟
一部損壊 369棟
床上浸水 116棟
合計5,977棟

④ライフラインの被害

種別	被害状況等	対応
上水道	約8,900世帯が断水 (7月7日時点)	7月9日飲用不可ながらも試験通水を開始 7月16日断水解消(小田川南側) 7月24日断水解消(小田川北側)
下水道	浄化処理機能の停止 (約4,000世帯に影響)	7月12日応急復旧 2019年12月頃 本復旧予定
電気	最大で2,200世帯が停電	7月12日19時10分 仮送電完了



自衛隊による救助活動及び国土交通省による排水作業(7月8日)

2 協定書

災害時におけるボランティア活動等に関する協定書

倉敷市（以下「甲」という。）と社会福祉法人倉敷市社会福祉協議会（以下「乙」という。）は、災害時におけるボランティア活動に関して、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、「倉敷市地域防災計画」に基づき、災害ボランティアセンター（以下「センター」という。）の設置及びそれに伴うボランティア活動を円滑に実施するために、甲及び乙の果たすべき役割と協力事項を定め、被災者の生活支援に寄与することを目的とする。

（連携・協力）

第2条 甲及び乙は、災害が発生した場合には、被害状況等を含めボランティア活動を行うために必要な情報を速やかに共有し、協力して措置を講じる。

（センターの開設等）

第3条 乙は、市内で災害が発生し、甲の災害対策本部が開設され、かつ、次の各号のいずれかに該当する場合は、センターを設置する。

(1) 甲が、乙にセンターの設置を要請した場合

(2) 乙が、センターを設置する必要があると判断し、甲の了承を得た場合

2 乙は、効果的な災害ボランティア活動を推進するため、乙の判断のもと、災害ボランティアセンター支部（以下「センター支部」という。）を設置することができる。

3 第1項第1号の規定による要請及び同項第2号の了承は、甲が乙に対し文書により行う。ただし、緊急を要する場合においては、電話、口頭等により行い、後日文書をもって処理する。

（センターの業務）

第4条 センターは、次に掲げる業務を行う。

(1) 甲の災害対策本部との連携による災害情報の収集、提供及び連絡調整

(2) 災害ボランティアの受け入れ、調整及び災害現場活動に関すること。

(3) 災害ボランティア活動に関する情報の収集及び提供に関すること。

(4) その他災害ボランティア活動等に必要な事項

2 乙は、被災状況等必要に応じて甲を通じ、岡山県災害救援専門ボランティアに対し活動要請をすることができる。

（設置場所）

第5条 センター本部の設置場所は、くらしき健康福祉プラザ内とする。

2 センター支部の設置場所は、各支所内とし、甲は、支所内及びその周辺に仮設するテント敷地等の確保に努める。

3 前2項の施設が被災し、センター等を設置することが困難な場合の代替りの場所、その他センター運営に必要な場所は、甲乙協議の上、平時に甲が確保する。

（費用負担）

第6条 甲の要請及び承認に基づき、乙が行ったセンターの運営費用は、原則として甲が負担する。ただし、当該災害ボランティア活動に係る支援募金、助成金等の収入があるときは、これらの収入を当該費用に充てるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に係る費用は、その職員の所属元が負担する。

(1) 業務を行う職員の給与及び諸手当等

(2) 業務に従事した職員が、それらの業務に起因して死亡し、負傷し、若しくは疾病にかかり、又は障害の状況となった場合の補償等

(3) 業務に従事した職員が、それらの業務を遂行するにあたり、他人に損害を与えた場合において、損害賠償を負う必要があると認められる場合に、その職員が負うべき損害賠償の責任の限度において行う賠償等

(資器材等の確保)

第7条 甲及び乙は、災害時に必要な資器材及び車両を、相互に協力して確保する。

(関係団体との協力体制)

第8条 乙は、センター及びセンター支部の運営に関し、登録ボランティアグループ、関係機関、地域各種団体等の協力を得ることができる。

(センターの閉鎖等)

第9条 センターの閉鎖時期については、甲乙協議のうえ決定する。

(損害補償等)

第10条 災害ボランティア活動中の事故に対する補償は、ボランティア活動保険によるものとし、その加入金は、原則としてボランティアの自己負担とする。

(報告)

第11条 甲は、乙に随時当該業務の実施状況について報告を求めることができる。また、当該業務終了後、乙は実施結果を取りまとめ、甲に報告する。

(平常時の協力)

第12条 甲及び乙は、平常時から連携を密にし、センターの設置運営に関する訓練等を実施し、災害時に迅速かつ円滑な協力体制が取れるように努める。

2 甲及び乙は、平常時から協力して、災害時における避難支援及び災害ボランティア活動に関する研修等を実施し、人材の育成に努める。

(協議)

第13条 この協定の実施に関し必要な事項、協定に定めのない事項及び疑義が生じたときは、甲乙協議のうえ決定する。

(有効期間)

第14条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし、協定満了日の3か月前までに、甲乙に何らかの意思表示がないときは、さらに1年間延長するものとし、以降も同様とする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各自1通を保有する。

平成30年4月1日

甲 倉敷市西中新田 640 番地
倉敷市
倉敷市長 伊 東 香 織

乙 倉敷市笹沖 180 番地
社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会
会長 虫 明 正 雄

3 技術を伴う災害ボランティア活動の基準(技術ボランティア目線あわせシート)

倉敷市災害ボランティアセンター

2018年 西日本豪雨災害(平成30年7月豪雨) 技術を伴う災害ボランティア活動の基準

～ より近くで、より丁寧に、寄り添います ～

はじめに

倉敷市災害ボランティアセンター(以下倉敷市災害VC)では、西日本豪雨災害における被災地・被災者支援を「より近くで、より丁寧に、寄り添い」活動し、一日も早い生活再建へ向かえることを目標としています。

一般的に、災害ボランティアセンター(以下災害VC)で募集するボランティアは特殊な技術を必要としない作業を念頭に置いています。しかし、被災家屋のリフォームを検討される場合やカビの影響を防ぐためには、床板や壁はがしなどの作業が必要となってきます。また、西日本豪雨災害においては2階までの浸水家屋も多く、過去に見ない1階の天井はがしなどの作業も発生しました。そのため、技術や知識を伴う作業も多く、倉敷市災害VCだけでは解決しにくいニーズが発生しています。

上記に伴い、倉敷市災害VCでは、地元住民や行政機関はもちろんのこと、一般公募の「技術ボランティア」や、災害支援に長けているNGO/NPO団体、大工や建築士といった専門職の方々、民間企業など、被災者の多岐にわたる困りごとに対応するため、多様なセクターとの連携を図りました。

支援者同士がそれぞれの長所を生かす形で連携・協力し、各セクターとの目線あわせをきちんと行い、住民負担(肉体的、精神的、経済的負担など)の軽減を図り、より効果的でスムーズな活動を実施することを目的として、倉敷市災害VCとして作業範囲の基準を定めるために本資料を作成しました。



目的

住民負担(肉体的、精神的、経済的負担など)の軽減を図り、より効果的でスムーズな活動を実施する

目標

- ・倉敷市災害ボランティアセンターとしての作業基準を決める
- ・技術系NPO間で作業基準を共有する
- ・単発の技術ボランティアに、作業基準に沿って活動してもらう

課題

- ・単発の技術ボランティアに依頼した場合、**作業のレベル**に差がでてしまう
- ・**家主の意向をきちんと同わず、個人の主観で依頼内容以上の作業範囲を行ってしまう**

- (事例1) 取る必要のない部分を外したり、損傷させてしまい、家主からの苦情が上がる
- (事例2) 今後の修繕に使用できる材料を、依頼主に確認せずに破棄してしまう
- (事例3) 依頼内容を実施する上で、他の部位を傷つけてしまう
例: 床はがしの際に、パールを使用し残せる床や敷居などを傷つけてしまう など

〔主な作業内容〕

内部に菌や臭いの元が入り込んでしまうため、天井、床、壁、その内側も汚泥水がしみ込んだ部分の撤去を行う。構造上、浸水によって強度が落ちてしまった部分の木材、新建材の撤去も行う。無垢材については再利用できることもある。

対象	作業工程(※詳細はP.6~参照)	頁
天井	浸水域によって、天井の下地まで撤去する	6
壁	クロスをはがして、裏側の石膏ボードを撤去する	7
床	表面の床材と、床の下地材まで撤去する	8
断熱材	浸水部分の状況に応じて撤去する	9
洗浄・仕上げ	浸水した対象部分を洗浄する※洗浄方法は、基礎の構造によって異なる	10
消毒	家屋内の気になる対象部分を全て消毒する	11

〔安全・危機管理〕

安全管理や危機管理を怠ってしまうケースが過去にもあります。

(例: 暑いからといって半袖で作業をする。ヘルメットを装着せずに作業をする等)

活動中は、作業前後の移動も含め、安全が第一です。ケガなどがあつた場合は、本人だけでなく、ボランティアの活動全体の流れの妨げになる場合もあります。また、**依頼主が責任を感じてしまう事**もあります。

衛生管理

流入した土砂の中には汚物や漂流物が混入しており、乾燥すると粉塵となって空気中に舞っている場合があります。防護マスク、手袋、ゴーグルなどの装備が必要です。



危険の予知

作業に入る前に、物が落ちてくる、足場が悪いなどの危険箇所をチェックし、共有が必要です。また、電気・水道・ガスの通り道を確認し、傷つけないよう注意して作業しましょう。



体調管理

災害現場では、自分自身が気付かない内に無理してしまうことがあります。みんなて声を掛け合い、無理をしない環境を作りましょう。また、水分補給、休憩をこまめに行い、熱中症や脱水症状にならないよう気を付けましょう。



〔作業に入る前に〕

Point1 安全第一で活動しましょう
活動中のけがを防ぐため、ヘルメットやゴーグルなどの装備品を着用した状態で活動しましょう。作業は**依頼主の希望のもと**に、作業を行うボランティアの体力や安全性に配慮し、そのうえで作業効率を考えて進めましょう。
作業内容に関して、**安全面や技術面で不安がある場合や不明確な場合は無理に行わず、災害VCに相談しましょう。**また、その旨を**依頼主にも説明しましょう。**

Point2 作業前にしっかりと情報の整理、収集を行いましょう
倉敷市災害VCでは、ボランティアのみなさんが作業に入る前に、現場調査を行い依頼主とどこまでの作業を行うかを**事前の相談・確認**をしています。
基本的には、依頼された作業範囲のみを行います。**当日、他にも作業をして欲しいとお問い合わせされた場合は、一度災害VCに報告をしましょう。**
→後のリフォーム時に使用できる資材は、必ず家主の意向を確認し、再利用する場合は丁寧に扱います。
(※P5「傷つけてはいけない箇所(一例)」を参照。)

Point3 後のことを考えながら作業をしましょう
自分たちの作業の後に、依頼主や翌日以降のボランティアがどういった作業を行うか考えましょう。
→当日の作業依頼内容が完了したとしても、**次のご依頼(困りごと)**があるかもしれません。依頼主に「他にもお手伝いして欲しいことや手が付けられず困っていることはありませんか?」など、**依頼主のベースに合わせて丁寧に確認**していきましょう。
→瓦礫や廃棄物を捨てる際には、**外観や損傷具合などを見て判断を行わず、程度依頼主に確認**しましょう。また、**分別**もしっかりと行いましょう。

〔傷つけてはいけない箇所(一例)〕



〔傷つけない工夫〕

傷つけてはいけない箇所には、雑巾や段ボールなどで養生を施す。
サッシや建具、床柱なども同様に養生カバーなどで傷をつけないようにする。



目線合わせシート

	天井	壁	床	洗浄・仕上げ	消毒	その他
倉敷災害VC	状態によって下地材を取る。廻り縁(まわりぶち)も取る(1階天井まで)	浸水ラインより20~30cm以上は外す。土壁、石膏ボードどちらも撤去。土壁は状況に応じて選択撤去を要する	畳を上げる。床材はがしは、技術系NPOや木工などの個人ボランティアへ依頼。※根太は取らない	高圧洗浄は経験者に依頼。基本はブラッシング、拭き上げて仕上げる。	niccoに依頼。1階、2階深かった部分全て。庭は行わない	災害VCでは扱えない内容は、対応できるNPO等がいれば依頼する ※水回り設備の撤去など
真備ベース 災害NGO ラブ&アース	VC基準に合わせる	VC基準に合わせる	畳上げ、フローリング対応可。作業しやすい範囲のみ根太を取る	高圧洗浄は行っているが、室内全てではない	VC基準を過ぎてniccoへ依頼	水回り設備の撤去は可能だが、災害VCの基準に合わせる
め組 JAPAN	VC基準に合わせる	VC基準に合わせる	畳上げ、フローリング対応可。基本、根太は取らない※住民から要望がある場合は外す	基本ブラッシング、拭き上げて仕上げる。高圧洗浄も使用可能	EM菌による消毒可能	水回り設備の撤去可。キッチン、トイレ、浴室、洗面など
旅商人 Team 桃太郎	VC基準に合わせる ※和室周りは、特に丁寧に確認する	VC基準に合わせる	畳上げ、フローリング対応可。根太を外して保存。床下の作業をしやすいとする	ベタ基礎、土基礎ともに高圧洗浄を行う	VC基準を過ぎてniccoへ依頼 高圧洗浄にてオゾン消毒可能	水回り設備の撤去可。キッチン、トイレ、浴室、洗面など
Team 西岡 (にしやん)	VC基準に合わせる	VC基準に合わせる	畳上げ、フローリング対応可。基本、根太は取らない※住民から要望がある場合は外す	1階のみ、天井、壁、床全てを高圧洗浄で行う	VC基準を過ぎてniccoへ依頼	水回り設備の撤去可。キッチン、トイレ、浴室、洗面など
PBV	VC基準に合わせる	VC基準に合わせる	畳上げ、フローリング対応可。基本、根太は取らない※住民から要望がある場合は外す	ベタ基礎のみ高圧洗浄、掃帚機、ゼロポンプ使用。基本はブラッシングと拭き上げて仕上げ。2階床、根太も同様	VC基準を過ぎてniccoへ依頼。急ぎの場合は、噴霧器によるオゾン消毒可能	水回り設備の撤去は可能だが、災害VCの基準に合わせる。その他、リーダーを雇えずに継続的に入ることが出来る

〔内装撤去〕天井はがし

- CHECK!**
- 全ての天井を剥がすわけではない。被害状況をきちんと確認し、必要に応じて下地材を撤去する
 - 家主と共に、取り外し作業の確認。作業工程の説明を行う
 - 脚立を使用している作業となるため、足場はしっかりと固定し、転倒のないよう気を付ける



【内装撤去】壁はがし

CHECK! 指
 ・貫を残すことで強度が保てるため、状況に応じて、できるだけ残す
 ・土壁、石膏ボードは、浸水ラインより20~30cm以上は取り外す。

- 選択①** 土壁にする
 土壁と小舞を残す
 基本的に貫は残す。腐っている場合のみ取る
- 選択②** 土壁にしない
 小舞を取る。もしくは、切る
 ※「小舞」がなくても、「貫」があれば、再生できるため ※どちらでも対応できるため、土壁にすることで、なっても後から小舞を腐むこともできるため
- 選択③** 土壁にするが、石膏ボードにするか迷っている(決まっていない)
 ※消毒の効果もあり、消毒も行いやすい ※土壁にする意向が強ければ、できるだけ小舞も残す



- 石膏ボードの場合**
 濡れている石膏ボードは全て外す。半分でも濡れていたら全て外す。濡れていない石膏ボードは残す
 浸水域や状況によって、下地材を取る
 新建材は、水を含むとカビも発生しやすいため、すべて外す。 ※無垢材は再利用可



【内装撤去】断熱材はがし

CHECK! 指
 ・断熱材は、天井、壁、床にそれぞれ入っている
 ・グラスウールは水を吸水しやすいので、浸水部分より多く撤去する
 ・グラスウールはガラス繊維でできているため、取り扱いに注意する
 ・保温板は状態により再利用可能(水洗いもしくは高圧洗浄を行う)

■繊維系断熱材(グラスウールなど)

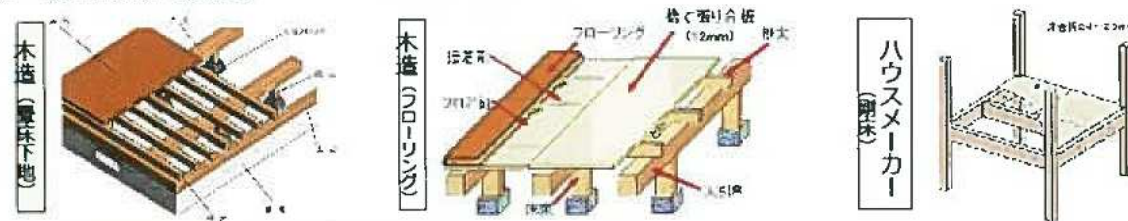
■発砲プラスチック系断熱材(発砲ウレタンフォーム)



【内装撤去】床はがし

CHECK! 指
 ・「床板」「根太」「大引き」含め、再利用できるものは、家主の費用負担軽減のためできるだけ残す

■一般的な床下の構造



- 構造①** 木造(畳床下地)
 根太は基本残す。
 ※腐っているなどの状況に応じて取る ※補修で丈夫そうなもので、1m以上あるものは特に再利用しやすい
- 構造②** 木造(フローリング)
 畳および、床材をはがし、釘を抜く
- 構造③** ハウスメーカー(剛床)
 床下地材(合板など)は、柱ギリギリまで切り落とす
 鋼製大引きまでの厚みに丸ノコの歯を合わせる

仕上げ清掃

CHECK! 指
 ・洗浄前に残材、くごの残りが確認する
 ・高圧洗浄の場合、状況により布基礎は行わない。ベタ基礎は高圧洗浄を行う
 ・作業場所の確認と、着工時期をきちんと確認してから、どの洗浄方法を行うか検討する

残材撤去(掃除機など)	拭き上げ 水拭きのほか、水たわしを使用することもある	メリット	デメリット
		<ul style="list-style-type: none"> 作業後の乾燥時間が短くてすむ 布基礎(土)の場合も対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> 時間と人手がかかる 木材内部に浸透している汚れは取り除くことが難しい
土落とし ブラッシング スクレーパー	高圧洗浄	メリット	デメリット
		<ul style="list-style-type: none"> 木材の表面を削るので、汚れを落としやすい 時間と人手がかからない 	<ul style="list-style-type: none"> 水を多く使うため、乾燥に時間がかかる(冬場は気温が低く、特に時間がかかる) 化粧材などは傷つきやすい(濡れたり色が変色しやすい) 水の拭き上げ作業が大変



消 毒

■受付方法



■作業内容

【対応 業者】 nicco (公社) 日本国際民間協力会 (消毒、害虫駆除が専門)、2名/1軒で対応
 【方法/商材】 噴霧器によるオスバン消毒 (希釈100~200倍)
 【回数】 家主や災害VCから依頼があれば何回でも可能 (市が受け付けていた時期は1回のみだった)
 【対応日】 金曜が中心
 【対応 期間】 2019年3月末まで (予定)



2018年 西日本豪雨災害 (平成30年7月豪雨)

【作成 / 協力団体】

- ・倉敷市災害ボランティアセンター (倉敷市社会福祉協議会)
- ・真備ベース / 災害NGO ラブ&アース
- ・め組JAPAN
- ・Team西岡 (にしやん)
- ・Team橋太郎
- ・災害NPO 新開人
- ・ピースポート災害ボランティアセンター (PBV)

【参考 / 引用資料】

- ・震災がつなぐ全国ネットワーク・編「水害があったときに」
- ・ピースポート災害ボランティアセンター (PBV) 「災害ボランティア チームリーダーの手引き」

2019年3月1日作成

平成30年7月西日本豪雨災害 (倉敷市真備) 災害ボランティアセンター救護班活動報告



救護班・ボランティア看護師

1 救護班の役割は?

- ① 地域住民とボランティアの熱中症や外傷予防の啓発、異常の早期発見早期対応
- ② 真備地区住民や支援者、特に在宅避難者の暮らしや困りごとの発見、相談対応
→保健所や地域包括支援センターにつなぐ。

2 従事時間は?

9時頃から16時くらい

活動内容は？

- ① 熱中症予防目的の氷のうづくり。(1日500個くらい)
- ② ボランティアの活動エリアを巡回し住民の健康チェックや健康相談(飲料水・氷のうと救護セット、血圧計・検温器、広報誌等持参)
- ③ 作業中のボランティアや住民への声掛け、休憩を促し、熱中症等異常の発見と対応、情報提供
- ④ 被災者で見守りや健康観察が必要な住民の家を訪問し、状況を把握、医療機関や包括支援センター等との連携
(まきび病院以外の真備地区の医療機関は全て被災しており診療が中断していた)
- ⑤ 救護ノートへ本日の状況や困ったことなどを記録し、夕方のボランティアセンター全体会議で共有、多機関多団体との連携
- ⑥ 寒い時期は氷のうではなく熱いタオルでボランティアを迎える

表1 救護活動の状況

月	ボラン ティア数	救護 班の 人数	職種別内訳			救護内容			
			看護 師	医師	その他	熱中 症	外傷	その他	計
8	24,958	475	423	18	34	75	123	78	276
9	10,585	166	155	8	3	2	76	34	112
10	5,766	61	59		2		38	13	51
11	4,640	28	28				19	6	25
12	3,226	16	11	1	4		18	5	23
1	2,480	24	23		1		11	6	17

岡山県看護協会から多くの看護師さんが派遣されてきました

救急搬送3名
玉島の病院に搬送

外傷原因は
暑さと
くぎ

まとめ

1 発災直後から真備に入っていた1人の看護師が救護班を立ち上げた。が、物品も人もなく、目の前で熱中症で倒れるボランティアに救急車を要請するしかなかった。

そこで・・・「熱中症予防の仕組みを構築」

- ① 20分活動10分休憩ルールの徹底
- ② 冷房がきく静養室の確保、おう吐セットと着替えの準備、サテライトでは土嚢のベッドをテント内に作ったが冷房がなかったため、レンタルのキャンピングカーを駐車場に待機して対応。
- ③ 氷の活用(冷やす・水分補給)、製氷会社から毎日氷を搬入してもらい、本部各サテライトに分ける
- ④ オリエンテーション時に熱中症予防周知

まとめ

2 うきに・・・「感染症予防の仕組みを構築」

真備地区での活動を終了しボランティアセンターに帰ってきたら

- ① 汚れた長靴等を高圧洗浄機で洗い流し、そのまま次亜塩素のプールに靴のまま入り除菌・消毒
- ② うがい(イソジン)
- ③ 手洗い

この作業の工程の中で看護師は、ボランティアに声掛けなどで健康チェック、外傷の手当てを実施した。

3 最後に・・・災害ボランティアセンター救護班には、数人の医療専門職と最低限必要な救護物品(バイタルサインを測定できる)、通信手段(スマホ)があればよい

あしがき

平成30年7月豪雨災害では、多くの皆様に倉敷市に駆けつけていただき、ご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

皆様のご支援ご協力のおかげで、1年8か月以上に渡って災害ボランティア活動を続けていくことができました。その活動も一定の役割を果たし、終息を迎えることができました。

思い返せば、平成30年の夏はとても暑い日々連続でした。発災後は雨がなかなか降らず、乾いた土埃が舞い、家屋にはカビが生えている状態。その中、住民の方や皆様と一緒に汗を流し、復旧・復興作業を行っていた時のことを昨日のように思い出します。

倉敷市・真備が元の姿に戻るには、まだ時間がかかりますが、一步一步着実に進んでいます。皆様からいただいた励ましの言葉を胸に、これからも一日も早い復興と、さらなる地域福祉の推進に努めてまいります。

最後に、本報告書作成のためにお忙しい中コメントを寄稿くださいました各種団体、地元住民組織をはじめ、多くの写真を提供くださいました災害支援ネットワークおかやま、一般社団法人ピースポート災害支援センター等、ご協力をいただきました皆様にお礼申し上げます。

社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会
職員一同



令和2年3月発行

編集・発行 社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会
〒710-0834 倉敷市笹沖180番地 ぐらしき健康福祉プラザ3階
電話 086-434-3301
FAX 086-434-3357
メール: kurasyakyo@kurashikisyakyo.or.jp
URL: <http://kurashikisyakyo.or.jp/>